

平成 25 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

職域の定期健康診断結果からの脂肪肝有所見男性の生活習慣の特徴

学位の種類: 修士 (看護 学)

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 10894601

氏名: 伊澤 貴美子

(指導教員名: 斉藤 恵美子)

注: 1 ページあたり 1,000 字程度 (欧文の場合は 300 ワード程度) で、本様式 1~2 枚 (A4 版) 程度とする。

【目的】 職域の定期健康診断 (以下、定期健診) で実施されている腹部超音波検査では、脂肪肝は勤労男性に多く、有症者の割合も増加傾向にあり、脂肪肝有所見者への保健指導の充実が必要と考えられる。また、脂肪肝有所見者の生活習慣の実態や保健指導に関する研究はほとんどない。そこで、本研究は、職域の定期健診の腹部超音波検査による脂肪肝有所見男性の生活習慣の特徴を明らかにし、脂肪肝有所見者への保健指導について検討することを目的とした。

【方法】 調査対象は、都内の一事業所の定期健診で腹部超音波検査を受けた男性 216 人のデータとした。2011 年 9 月~12 月に実施された定期健診のデータを収集し、分析した。調査項目は、検査値として、体重、Body Mass Index (以下、BMI)、腹囲、血圧、総コレステロール、中性脂肪、HDL コレステロール、LDL コレステロール、空腹時血糖、ヘモグロビン A1c、腹部超音波検査などの 16 項目、問診票からの自覚症状として体重の変化、便秘等の 8 項目、生活習慣として、食生活、喫煙、飲酒、休養・睡眠、運動等の 7 項目とした。これらの検査値と自覚症状、生活習慣の項目について、脂肪肝有所見群 (以下、有所見群) と非有所見群の 2 群間で比較した。

【結果】 脂肪肝有所見者は 114 人 (52.8%) であった。有所見者群と非有所見者群の 2 群間の比較の結果、有所見者群は非有所見者群に比較して、BMI、腹囲、血液検査の有所見の人の割合が統計的に有意に多く、「1 回 30 分週 2 回以上の運動を 1 年以上実施している」人の割合が有意に少なかった。また、有所見者群の中で、特定保健指導の情報提供対象者は 31 人 (31.6%) であった。有所見者群の中での情報提供群と 40 歳未満群 (16 人) との比較では、40 歳未満群の方が情報提供群に比較して、BMI 25.0 以上、腹囲 85.0cm 以上の人の割合と、生活習慣の「油っぽい料理の頻度」を「よく食べる」と回答した人の割合が統計的に有意に多かった。

【考察】 脂肪肝有所見者への保健指導では、検査値の確認とともに運動習慣を身につけ、その継続を支援することが重要である。また、特定保健指導の情報提供区分や 40 歳未満の対象者についても、脂肪肝有所見の場合には、個別面談や集団指導の機会を設定して、運動習慣と食生活についての保健指導が必要であることが示唆された。